

表情が迷惑行為の抑制に与える効果

一歩きスマホを抑制するポスターを例に

青木まりな 遠藤沙也香 紺野まりえ



表情表出の効果

- ポスターにおける表情の効果 (植松, 2019)
保険商品を題材に、真顔と笑顔の女性モデルのポスターを作成し、どちらが、広告評価や製品態度、企業評価を高めるのかを検討。
- 安心感を与える言語情報の提示のときは、笑顔のほうがよい
- 不安をおおるような言語情報の提示のときは、真顔 (無表情) のほうがよい
- ⇒**伝達内容によって適した表情**がある。

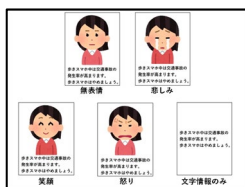
しかし…

- 迷惑行為の抑制**を訴える場合はどうか？
- 表情の効果が異なる…？
- 無表情やネガティブな表情のほうが効果的な場合がある…？
- ⇒真顔 (無表情) と笑顔以外の表情も検討しては？

本研究では、
 > 扱う表情を増やし、
 > **より伝達内容に適した表情はなにか**を検討する。

予備調査

- 予備調査①：ポスターでとりあげる題材を検討
→**歩きスマホに着目**
- 予備調査②：実際の歩きスマホ抑制ポスターで使われている表情の種類やポスターの特徴を調査。
→本研究で用いる表情を検討
- 予備調査③：表情刺激を作成 →各感情の伝達度を検討



※予備調査②③より決定した使用ポスターの例

- 表情4種類 (笑顔・無表情・怒り・悲しみ) に加え、文字情報のみを追加。
- 男性版も同様に5種類用意。

方法

- 調査対象者**：宮城学院女子大学生の学生102名 (女性イラスト条件51名、男性イラスト条件51名)
- 調査方法**：質問紙法(Googleフォームを使用)
- 使用ポスター**：予備調査②・③より
(1)メッセージ
「歩きスマホは交通事故の発生率が高まります。歩きスマホはやめましょう」
(2)ポスターの種類
笑顔・無表情・怒り・悲しみ・文字情報のみの5種類用意



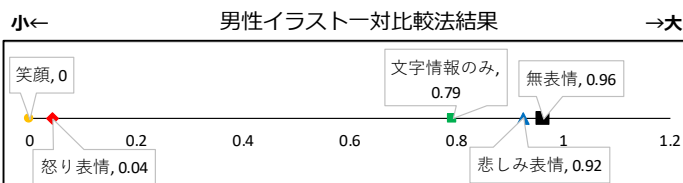
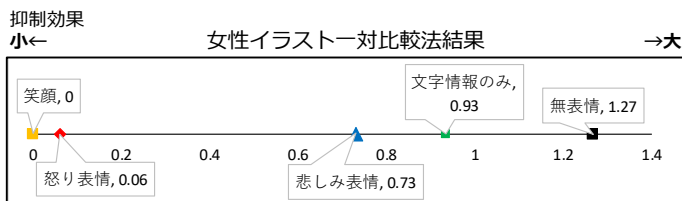
- 質問項目**
(1) **抑制効果について (一対比較法)**
5種類のポスターを2枚ずつ対提示して、『歩きスマホをしないようにしよう』とより強く思うのはどちらですか。とたずね、2枚の中から1枚選択させた。
- (2) **印象について (SD法)**
各ポスターについて以下の8つの形容詞対を用いてたずねた。
「好き—嫌い」「感じの良い—感じの悪い」
「信頼できる—信頼できない」 鎌田・吉野・臼井(2015)
「共感できる—共感できない」 石崎(2003)
「強い—弱い」「あたたかい—つめたい」
「攻撃的でない—攻撃的」 熊本(2018)
「親しみやすい—親しみにくい」 中牟田・佐藤(2017)

目的

- 笑顔表情、無表情、怒り表情、悲しみ表情、文字情報のみのポスター
→**どの表情が歩きスマホの抑制意識を高めるのか**を検討
- 各表情ポスターの印象を調査
→**抑制効果の結果を解釈するための材料**とする

結果

(1)抑制効果の検討： 一対比較法の結果 (図ごとに抑制効果小←→抑制効果大)

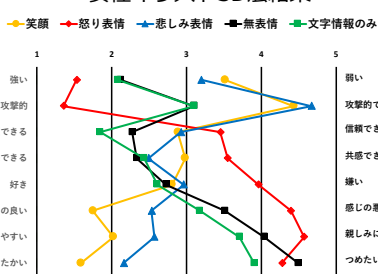


- 歩きスマホの抑制意識を高めたポスターについて…両条件ともに… →**無表情が最も抑制効果が高い**
→**怒りと笑顔が抑制効果が低い**

●**文字情報のみ**ポスターがどちらの条件も**抑制効果高め**

(2)印象の検討： SD法の結果

女性イラストSD法結果



女性イラスト条件で抑制効果の高いポスターに共通の印象をみると…

「信頼できる」
「共感できる」
が抑制効果に影響した可能性

男性イラスト条件では、抑制効果の高い表情に共通した印象は見られず…

まとめ

最も抑制効果の高い表情…無表情

◇理由
見る側にポスター内容や表情から読み取る感情について自らの解釈を持たせることになるため、ポスターの意図を考えさせることができた？

今後の課題

使用したイラストの雰囲気や回答者の性別によって、ポスターに対する評価が変わる可能性